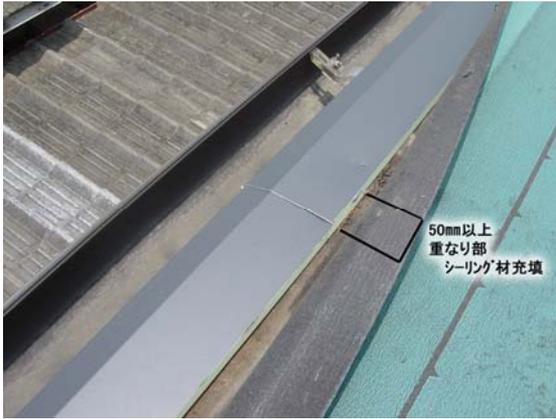


■ 施工手順（断熱材厚さ 25 mmにて説明。断熱材厚さ 40 mmの場合は（ ）内の寸法。）

1. 断熱工法用勾配付軒先水切の施工



①断熱工法用勾配付軒先水切を、野地板とルーフィングの間にカラーネイル釘 L32 mmにてピッチ 600 mm以内で取付けて下さい。軒先水切の重ね代は、50 mm以上とし、重なり部にシーリング材を充填して下さい。

注意

※軒先水切の重ね代は 50 mm以上として下さい。
※重なり部には必ずシーリング材を充填して下さい。

2. 軒先瓦座・断熱工法用軒先水切・らくらく面戸の施工



②軒先瓦座 30×65(80)×2,000 にL型軒先金具 3 個以上（ピッチ 900 mm以内）を引っ掛けるようにステンスビス 25 mmにて固定して下さい。固定後、野地板の先から 60 mmの位置に外づらを合わせてセットし野地板にステンスビス 25 mmにて止め付けて下さい。

注意

※L型軒先金具は、ピッチ 900 mm以内で必ず施工して下さい。

③断熱工法用軒先ケラバ水切を軒先瓦座にカラーネイル釘 L32 mmにてピッチ 600 mm以内で取付けて下さい。断熱工法用軒先ケラバ水切の重ね代は 50 mm以上とし、重なり部にシーリング材を充填して下さい。

注意

※軒先水切の重ね代は 50 mm以上として下さい。
※重なり部には必ずシーリング材を充填して下さい。

3. ケラバ下地材の施工



④ケラバ下地材 45×35(50)をケラバ部分にステンスビス 65 mm(75 mm)にてピッチ 600 mm以内固定して下さい。

4. 断熱工法用ケラバ水切・登梁木の施工



⑤断熱工法用軒先ケラバ水切をケラバ下地材に固定し、その上に登梁木 45×45(45×45)を固定して下さい。

注意 確認

※ケラバ水切はカラーネイル釘 L32 mmにてピッチ 650 mm以内で固定して下さい。

※登梁木はステンスビス 65 mm(75 mm)にてピッチ 600 mm以内で固定して下さい。

5. 墨打ち・棟金具・受け金具・椼木の施工



⑥墨打ちは、表に示す寸法で行って下さい。棟際は棟金具の幅を残して、墨打ちして下さい。

墨打ち寸法(mm)	フレンチ	プロヴァンス S
軒先瓦座から1段目	378 mm	378 mm
2段目以降	363 mm	363 mm

注意 **確認**

※葺き足を調整できませんので、墨打ちは所定寸法通り行って下さい。

⑦棟金具を大棟部に施工して下さい。

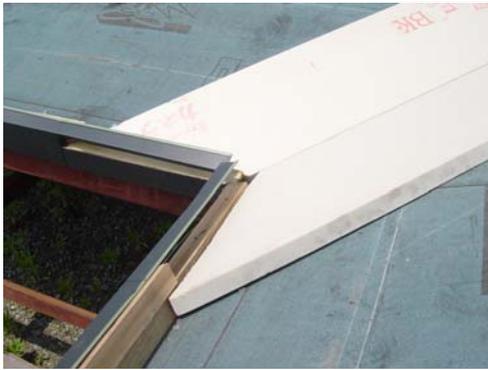
⑧椼木に穴を4箇所開けていますので、その穴に合わせて受け金具を敷きこみ、椼木の上端を墨線に合わせて、ステンレスビス65mm(75mm)にて椼木と受け金具を同時に野地板に固定して下さい。

注意 **確認**

※固定位置が野地板の隙間等効かない箇所になった場合は、所定の穴を使用せず、受け金具をずらし、ずらした位置にステンレスビスにてしっかり固定して下さい。

※小さい椼木が入る場合でも、受け金具は最低2個で受ける様に施工して下さい。

6. 谷部断熱材の施工(谷部がある場合)



⑨屋根に谷部がある場合、軒先瓦座を断熱材の厚みに合わせて切り込みます。また、断熱工法用勾配付軒先水切も谷板が軒先に巻けるように切り抜いて下さい。

注意 **確認**

※軒先瓦座はきっちり断熱材の厚みに合わせて切り込んで下さい。

⑩谷用断熱材を流れ方向に施工します。軒先や棟際の断熱材は屋根形状に合わせてカットして下さい。

注意 **確認**

※谷用断熱材は隙間なくきっちり施工して下さい。

※谷部の断熱材は、谷用断熱材を使用して下さい。

7. 谷板金の施工



⑪谷板金を谷用断熱材の上に置き、吊り子にて椼木に固定して下さい。

注意

※吊り子ピッチは650mm以内として下さい。

8. 一般部断熱材の施工



⑫断熱材は、軒先2段目より水下から水上に向かって施工します。断熱材を椼木間にはさみ込み受け金具付近の断熱材を手や足でたたみ込み断熱材を金具に取付けます。断熱材は隙間ができない様施工します。軒先1段目は室内の外側の位置にあり、特記がない限り施工は不要です。

確認

※断熱材の隙間が5mm以上できた場合は、隙間に現場発泡ウレタンフォームを充填して下さい。

9. 隅棟部断熱材の施工



- ⑬隅棟部には、あらかじめ斜めカットされている「隅棟部用斜めカット断熱材」を使用して下さい。「隅棟部用斜めカット断熱材」は、屋根勾配 4.5 寸に合わせ切断しています。4.5 寸以外の勾配の場合、できる限り隙間が小さくなる様施工して下さい。

注意 **確認**

※左右の隅棟用断熱材を合わせた際、隙間ができた場合は、隙間に現場発泡ウレタンフォームを充填して下さい。

10. 大棟部断熱材の施工



- ⑭大棟部分において、瓦割りができていない場合は断熱材をカッターナイフ等でカットして、はめ込んで下さい。

確認

※隙間ができた場合は、現場発泡ウレタンフォームを充填して下さい。

- ⑮棟金具の箇所の際間に現場発泡ウレタンフォームを充填して下さい。

- ⑯棟涼(小屋裏換気)を使用する場合は通気部分を現場発泡ウレタンフォーム等でふさがないように注意して下さい。

11. 壁際部の施工



- ⑰棟際と同じく、瓦割りができない場合、断熱材をカットし、隙間ができた場合現場発泡ウレタンフォームを充填して下さい。また、壁際流れ方向には捨水切を先に入れておいて下さい。

注意 **確認**

※軒先水切の重ね代は 50 mm 以上として下さい。

※重なり部は必ずシーリング材を充填して下さい。

12. 瓦の施工(完成)



- ⑱各部の瓦を施工して完成です。

【屋根外断熱工法(波形瓦タイプ)】施工手順書

注意・確認事項

【屋根外断熱工法(波形瓦タイプ)】施工上の注意及び確認事項を次の表示で区分し説明しています。

注意
この表示の欄は「漏水または物的損害が発生する可能性が想定される事項」の内容です。

確認
この表示の欄は「製品性能を確保するための取付上の確認事項」の内容です。

注意

- 断熱材や栈木をカットする際、防水シート(ルーフィング)を切らない様に注意して下さい。
- 現場発砲ウレタンフォームやシーリング材の使用箇所は施工手順書に示していますので厳守して下さい。
- 釘・ビスは指定の部材と本数で施工して下さい。
- ルーフィングはアスファルトルーフィング 940 品以上を使用して下さい。

確認

- 断熱材の隙間が約 5 mm 以上ある場合は、現場発砲ウレタンフォームを充填して下さい。

適用範囲

建物高さ(軒・棟平均値)	標準屋根勾配
15m以下	3.5/10~6.0/10 ※上記以外の勾配は別途ご相談下さい。

屋根断熱工法施工フロー図

